

公 表

第33回技能グランプリ「建築配管」職種

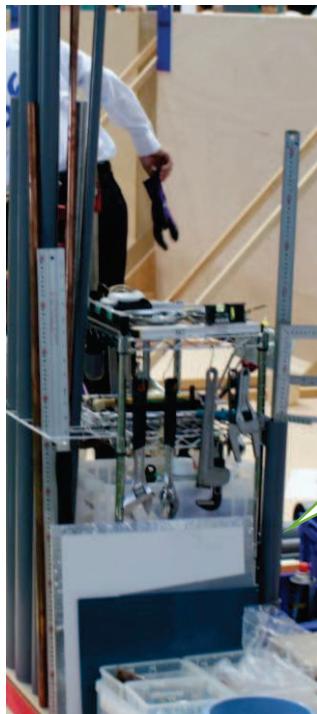
持参工具等一覧表（参考）に関する注意事項

- 持参工具・接合材料等は、課題製作に必要なもので、適正かつ安全なものとする。
- 持参工具等一覧表は参考とし、適切な工具を持参する。
- 競技下見日の工具展開終了後は、新たな工具類は持ち込めない（充電式ドライバの電池を除く）。競技開始後、競技エリア内に持参工具を持ち込む場合は、申告制とする。但し、減点の対象となる。
- 持参工具の中で、型取りや採寸等の事前加工した治具、及び競技材料と混同し易い材料の持ち込みは不可とする。そのため競技中に行わなければならぬ加工を事前に行っている治具は、競技下見日に競技委員による協議にて判断する。
 - (1) ガス用トーチランプは、カートリッジ2本以内とする。
 - (2) アセチレン、酸素、LPGのボンベは、持ち込みができない。
 - (3) パイプ万力の脚部安定用の金具等は、使用しても良い。但し、競技場所の床への直接固定はできない。
 - (4) 電動工具類は、「充電式ドライバ・作業灯」（電池式又は充電式）のみ使用可とする。他のものは持込不可とする。また、会場での充電はできない。
 - (5) 治具、型板及び原寸図は、事前に作成しないこと。
 - (6) 塩ビ管接着剤は、HIVP用（無色透明）のものを使用すること。
 - (7) 同一箇所でのシールテープと液状シール材との併用はできない。
 - (8) ねじ切り用切削油の油受けとして使用するものは、新聞紙等の燃えやすいものは持込まないこと。
 - (9) パイプ曲げ加工に砂を使用する場合、事前に計量区分しないこと。
 - (10) 服装は、作業に適した清潔な作業服・作業帽（ヘルメットも可）・作業靴・作業手袋を着用のこと。
- (11) 水容器を持参してもよいが、指定された競技者枠内で使用すること。

- (12) 会場には「耐火レンガ」「バケツ」「耐火板」の準備がある。
- (13) 各自作業用の時計を持参し、時間管理を行うこと。また、基準となる時計は会場で指示する。

(参考)

事例 1 認められない工具棚の事例



支給材料と同じ材料を工具棚として使用している。

事例 2 認められない治具の事例



R部を加工しやすいように事前に型板を加工している。

区分	品名	
工具類	ハ ン マ	木づち、金づち、プラスチック
	や す り	銅管用、鋼管用
	面 取 り 器	塩ビ管用、銅管用、鋼管用
	の こ	ビニルのこ、鋼管用金切りのこ（弓のこ）
	パ イ プ カ ッ タ	塩ビ管用、ポリ管、銅管、鋼管
	は さ み	型板作成用
	ト 一 チ ラ ン プ	ガス用に限定し、2本以内とする。
	サ イ ジ ン グ ツ ル	銅管用
	レ ン チ 類	モンキレンチ、ラチェットレンチ、モータレンチ、スパナ、水栓回し
	プ ラ イ ヤ	
	ナ イ フ	
	パ イ プ 万 力	
	手動式パイプねじ切り器	J I S管用テーパねじ用（カセット型も可）、S G P 20A・15A用
	手動式パイプベンダー	銅管用
	パ イ プ レ ン チ	
	油 さ し	切削油入り
	ド ラ イ バ	
	き り	
	銅 管 用 研 磨 ブ ラ シ	サンドペーパ・内外両面ブラシ
	工 具 棚	

接合材料	銅 管 用 は ん だ	
	フ ラ ツ ク ス	銅管はんだ用
	塩 ビ 管 接 着 剤	塩ビ管接続用 H I V P用（無色透明）を使用する。
	シ ー ル テ ー プ	同一箇所でのシールテープと液状シール材との併用はできない。
	液 状 シ ー ル 材	
測定具他	墨 つ ぼ	チョーク墨も含む。
	定 規	直・曲尺、巻尺、折り尺、ノギス等
	製 図 用 具	
	ス コ ヤ	
	V ブ ロ ツ ク	
	水 平 器 ・ 勾 配 器	
	水圧テスト器（手動式）	
その他	砂	
	垂 鉛 鉄 板	型板作成用（その他の材質も可）
	筆 記 用 具	原寸図作成用
	石 筆 ・ チ ョ ー ク	
	霧 吹 き	
	防 炎 シ ー ト	接合時養生用
	小 ほ う き	ちりとり共
	木 桁 及 び キ ャ ッ プ	銅管砂曲げ用
	作 業 灯	電池式又は充電式
	ウ エ ス	
	時 計	作業時間管理用